

平成 25 年度独立行政法人日本芸術文化振興会年度計画

平成 25 年 3 月 29 日制定

平成 26 年 2 月 25 日変更

(序 文)

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三十三号）第三十一条の規定により、平成 25 年 3 月 29 日付け 24 受庁文第 1465 号で認可を受けた独立行政法人日本芸術文化振興会中期計画に基づき、平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで）の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

本年度の事業の実施に当たっては、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災からの復興状況を踏まえて、当振興会に課された使命の達成に努める。

なお、本年度は能楽堂開場 30 周年及び国立劇場おきなわ開場 10 周年の記念の年に当たる。当振興会の役割について国民の理解を得て、我が国の伝統芸能の保存と振興に資するため、記念公演等の各種記念事業を実施する。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 芸術文化振興基金（以下「基金」という。）の運用収入等を財源とする助成金の交付に関する計画

次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

① 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動

- (a) 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動
- (b) 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動
- (c) 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等

② 地域の文化の振興を目的として行う活動

- (a) 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- (b) 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

③ 文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動

- (a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動
- (b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）を財源とする助成金の交付に関する計画

次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

- ① 我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術団体が国内で実施する舞台芸術の創造活動
- ② 優れた日本映画の製作活動

ウ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等に関する基準を策定し、ホームページ等で公表する。また、舞台芸術分野については、審査基準を事前に公表する。
- ② 助成対象活動について外部有識者、プログラムディレクター及びプログラムオフィサー等による公演等調査を行うとともに、補助金を財源とする助成金の舞台芸術分野については事後評価を実施する。
 - ・ 公演等調査：400 件以上
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査のため、職員による会計調査を実施するとともに、プログラムディレクター及びプログラムオフィサーが中心となって、助成対象団体と助成対象活動等について意見交換を実施する。
 - ・ 会計調査：90 件以上
- ④ 助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換等も踏まえ、助成対象分野の現状等について調査分析を行う。
- ⑤ 地域の文化振興等の活動について、応募書類の受付窓口及び推薦に係る業務等について地方公共団体と連携・協力して効率的に実施する。
- ⑥ 事務手続きの合理化を図るため、助成金交付事務に係る助成業務システムについて、応募書類の電子データによる受付等について検討する。

基金及び補助金の助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間について 35 日以下とする。

エ 基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施する。

オ 芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知を図り、芸術文化振興基金の受入拡充に努める。

また、東日本大震災に伴う被災地の復興支援を目的とした芸術文化復興支援基金による助成事業について、その周知を図りつつ、助成に必要な資金の確保に努める。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動に対する援助の中核的拠点として、広く文化芸術活動に関する情報を収集し、その情報をデータベース化するとともに、ホームページ等を通じて提供する。

- ・ ホームページ目標アクセス件数：129,000 件

イ 振興会が実施する文化芸術活動に関する助成事業を周知するため、ホームページでの情報提供を充実させるとともに、助成対象活動の事例集を作成・配布する。

ウ 助成対象活動の募集に当たっては、芸術関係誌等への広告掲載及びホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布する。

エ 芸術団体等を対象とした助成対象活動の募集説明会について、東京、大阪に加え、他地域でも開催する。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施する。

イ 演目の拡充

- ① 歌舞伎について、平成 17 年度に作成した「復活上演候補演目一覧」の見直しを継続するとともに、「国立劇場文芸研究会」において、上演候補台本準備稿の作成作業を進める。

また、歌舞伎の新作脚本募集について、周知及び応募受付を行う。なお、選考及び表彰は平成 26 年度に行う予定。

- ② 文楽について、廃絶演目の復曲作業を進めるとともに、上演に向けた準備作業を行う。
- ③ 大衆芸能の新作脚本募集について、「浪曲」の作品を募集し、選考及び表彰を行う。
- ④ 能楽について、国立能楽堂開場 30 周年記念に当たり、上演機会が少ない大曲・秘曲の上演や新作能の委嘱制作による上演を行う。また、他の能楽堂で上演された優れた新作・復曲作品を上演する。
- ⑤ 組踊等沖縄伝統芸能について、国立劇場おきなわ開場 10 周年記念に当たり、上演機会が少ない優れた演目の上演や、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演を行う。

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施する。

(3) 青少年等を対象とした公演

ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施するほか、社会人や親子を対象とした入門企画を別表 4 のとおり実施する。実施に当たっては、各公演等の連携協力を強化するなど、その充実を図る。

イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施する。実施に当たっては、各公演の連携協力を強化するなど、その充実を図る。

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見を聴取するとともに、観客へのアンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。

イ 我が国における伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、中期計画の方針に従い、次のとおり公演等を実施する。

- ① 共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施する。
- ② 各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施する。
- ③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施する。

(5) 快適な観劇環境の形成

ア 観客の要望等を踏まえ、ロビー内等の案内表示の整備を行うとともに、売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行い、観客にとって安全で快適な環境を提供する。

また、外国人の観客に対し、英文等パンフレットの配布など各種情報の提供に努める。

イ 入場券販売において、インターネットや電話など、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供し、販売の促進を図る。

ウ 公演内容等の理解を促進するため、次のサービス等を提供する。

- ① 解説書等を作成し、その内容の充実に努める。

② 公演内容に応じて音声同時解説や字幕表示を行う。

③ 鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学を行う。

エ ホームページ、ご意見箱等を通じて寄せられる意見の受付や、観客へのアンケート調査や劇場モニターの活用等により、観客等の要望、利用実態等を把握し、サービスの向上に活用する。寄せられた意見・要望については、迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握・管理、職員への周知を行い、サービスの向上に努める。

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施する。

国立能楽堂開場 30 周年記念公演については、特別ポスター・チラシを作成し、ホームページに特設ページを掲載する。また、国立劇場開場 50 周年に向けた広報等について検討を開始する。

② 振興会各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供する。

ホームページにおいては、公演情報、イベント情報、トピックス記事等の早期掲載及び内容の充実に努めるとともに、アクセス動向等を分析して利用状況を把握する。また、英語版ホームページの記事内容等を見直し、外国人に対する情報発信を強化する。

メールマガジンにより、公演等の情報を随時配信する。

- ・ 日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数：2,000,000 件
- ・ 国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数：216,000 件
- ・ 新国立劇場ホームページ目標アクセス件数：2,500,000 件

③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行する。

- ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
- ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
- ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）

④ 観客の需要を踏まえ、シーズンシートやセット券を企画し、販売を推進する。

⑤ 旅行代理店・ホテル等との連携強化等により団体観劇を促進する。また、26 年度に導入予定の「法人会員サービス」についての周知及び会員の募集を行う。

⑥ 全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティー等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施する。

イ 会員組織の会員に対し、会報による情報提供を定期的に行うとともに、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供して、会員の観劇意欲を促進する。また、アンケート調査を適宜実施するとともに、劇場モニターの意見内容について検討し、会員向けサービスの一層の充実に努める。

新規会員について、会員向けサービスの周知により、引き続き増加に努める。

① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）

- ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）
- ・ 会員向けイベント：年 8 回程度
- ・ 目標会員数：18,000 人

② 文楽劇場友の会

- ・ 「文楽劇場友の会会報」（年 6 回発行）

- ・ 会員向けイベント：年 6 回程度
- ・ 目標会員数：7,450 人
- ③ 国立劇場おきなわ友の会
 - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」（年 4 回発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 3 回程度
 - ・ 目標会員数：1,700 人
- ④ クラブ・ジ・アトレ（新国立劇場）
 - ・ 会報「ジ・アトレ」（毎月発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 11 回程度
 - ・ 目標会員数：9,600 人

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 中期計画の方針に従い、劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を次のとおり貸与する。

区分	貸与日数	使用効率
本館大劇場	75 日	80%
本館小劇場	152 日	77%
演芸場	103 日	87%
能楽堂本舞台	180 日	70%
文楽劇場	107 日	68%
文楽劇場小ホール	99 日	54%
国立劇場おきなわ大劇場	77 日	43%
国立劇場おきなわ小劇場	77 日	41%
新国立劇場オペラ劇場	50 日	38%
新国立劇場中劇場	161 日	65%
新国立劇場小劇場	115 日	71%
（合計）	1,196 日	64%

※ 使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供（主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演）を行った日数の割合。

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を行う。

- ① 各施設の設備等の概要、貸与手続き及び空き日等の情報をホームページへ掲載する。
- ② パンフレットやダイレクトメールにより広報を行う。
- ③ 利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む。
- ④ 利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実を図る。
- ⑤ 他の劇場施設等の調査を引き続き行い、利用方法、利用料金等の検討を行う。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり養成研修を実施する。

- ① 歌舞伎俳優・音楽
（歌舞伎俳優：研修期間 2 年）

- (a) 第21期生（10名程度）の1年目の養成を行う。
（歌舞伎音楽）
- (b) 竹本第21期生（研修期間2年、4名程度）の1年目の養成を行う。
- (c) 鳴物第15期生の募集について検討を行い、実施する予定。
- (d) 長唄第6期生（研修期間3年、2名程度）の1年目の養成を行う。
- ② 大衆芸能
 - (a) 太神楽第7期生（研修期間3年、2名）の3年目の養成を行い、修了を予定。
 - (b) 寄席囃子第13期生の募集について検討を行い、実施する予定。
- ③ 能楽（ワキ・囃子・狂言：研修期間6年）
 - (a) 第8期生（1名）の6年目の養成を行い、修了を予定。
 - (b) 第9期生の募集について検討を行い、実施する予定。
- ④ 文楽（大夫、三味線、人形：研修期間2年）
 - (a) 第26期生（5名程度）の1年目養成を行う。
- ⑤ 組踊（立方・地方：研修期間3年）
 - (a) 第3期生（9名）の3年目の養成を行い、修了を予定。
 - (b) 組踊第4期生の募集について検討を行い、実施する予定。
- イ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。
 - ① 既成者研修発表会を次のとおり実施する。
 - (a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会（2公演実施）
 - ・ 歌舞伎会・稚魚の会合同公演（本館小劇場）8月17日～20日、8回
 - ・ 上方歌舞伎会（文楽劇場）8月24日～25日、4回
 - (b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会（1公演実施）
 - ・ 音の会（本館小劇場）8月3日～4日、2回
 - (c) 能楽既成者研修発表会（3公演実施）
 - ・ 若手能（京都：観世会館）7月27日、1回
 - ・ 若手能（大阪：大槻能楽堂）1月18日、1回
 - ・ 若手能（東京：能楽堂）2月1日、1回
 - (d) 文楽既成者研修発表会（3公演実施）
 - ・ 文楽若手会（文楽劇場）6月22日～23日、2回
 - ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）8月30日、1回
 - ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）3月7日、1回
 - (e) 組踊既成者研修発表会（1公演実施）
 - ・ 子の会（国立劇場おきなわ大劇場）11月30日、1回
 - ② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進する。
- ウ 実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施する。
また、研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。
- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修
 - ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施する。
 - ① オペラ研修（研修期間3年）

- (a) 第14期生（5名）の3年目の研修を行い、修了を予定。
 - (b) 第15期生（5名）の2年目の研修を行う。
 - (c) 第16期生（5名）の1年目の研修を行う。
 - (d) 第17期生（5名程度）の募集を行う。
 - (e) 研修発表会等（3公演実施）
 - ・ 研修所公演（新国立劇場中劇場）2月28日～3月2日、3回
 - ・ 試演会 オペラ試演会（新国立劇場小劇場）7月27日～28日、2回
 - ・ 歌唱コンサート（新国立劇場中劇場を予定）秋季、1回
 - (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月に海外研修を行う。
- ② バレエ研修（研修期間2年）
- (a) 第9期生（6名）の2年目の研修を行い、修了を予定。
 - (b) 第10期生（6名）の1年目の研修を行う。
 - (c) 第11期生（6名程度）の募集を行う。
 - (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
 - ・ 第4期生（3名）の2年目の研修を行う。
 - ・ 第5期生（3名）の1年目の研修を行う。
 - ・ 第6期生（若干名）の募集を行う。
 - (e) 研修発表会等（3公演実施）
 - ・ 発表公演（新国立劇場中劇場）10月14日、1回
 - ・ 修了公演（新国立劇場中劇場）3月8日～9日、2回
 - ・ 「バレエ・アステラス★2013」（新国立劇場オペラ劇場）7月21日、1回
 - (f) 国際的な舞台経験を積むため、「ボリショイ劇場バレエ学校240周年記念ガラ公演」に出演する。11月15日～19日、3回。
- ③ 演劇研修（研修期間3年）
- (a) 第7期生（12名）の3年目の研修を行い、修了を予定。
 - (b) 第8期生（12名）の2年目の研修を行う。
 - (c) 第9期生（12名）の1年目の研修を行う。
 - (d) 第10期生（12名程度）の募集を行う。
 - (e) 研修発表会等（4公演実施）
 - ・ 修了公演（新国立劇場小劇場）3月14～16日、4回（予定）
 - ・ 朗読劇「少年口伝隊一九四五」（新国立劇場小劇場）8月1～3日、3回
 - ・ 第7期生試演会①（新国立劇場小劇場）5月17～19日、4回（予定）
 - ・ 第7期生試演会②（新国立劇場小劇場）12月21～23日、4回（予定）
- イ 実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意する。
- また、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、成果が不十分なものについては廃止を含め、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直しを行う。
- (3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項
- ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。

また、研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介 DVD の活用、研修見学会の実施等により周知し、応募者の増加を図る。

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るとともに、伝統芸能及び現代舞台芸術の振興・普及のため、研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施する。

また、外部公演への出演依頼に積極的に応じて、文化普及活動への参画に努める。

ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。

エ 国の文化振興施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力を努める。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施する。

① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、上演内容の理解促進に活用する。

② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究を次のとおり行う。

(a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第八巻の刊行及び第九巻の刊行準備

(b) 「義太夫年表 昭和篇」第二巻の刊行及び第三巻の刊行準備

(c) 「沖縄芸能史年表」第十集の作成

③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、次のとおり復刻・刊行等を行う。

(a) 歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第二巻の刊行

(b) 未翻刻戯曲集第二十巻の刊行

(c) 正本写合巻集（2冊）の刊行

(d) 演芸資料選書・11の刊行準備

(e) 「国立能楽堂調査研究」(8)の刊行

イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施する。

① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

各館においては、伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主として各館で公開する分野に関する図書・資料を収集する。

図書については、開架図書を充実させるとともに、ホームページで蔵書検索サービスを提供し、一般の利用の促進に努める。

② 収集した資料等を活用し、次のとおり刊行を行う。また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与する。

(a) 特別展示図録の刊行（能楽堂）

(b) 英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」(3)(4)の刊行（能楽堂）

③ 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、インターネットにより公開する。

(a) 図書、資料及び公演記録等について、引き続き次の情報のデータベース化を行う。

- ・図書（本館筋書）
 - ・ブロマイド
 - ・公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）
- (b) デジタルコンテンツを次のとおり作成する。

- ・文化デジタルライブラリー
 - 舞台芸術教材「雅楽編」
 - 舞台芸術教材「文楽編」
- ・伝統芸能情報館展示
 - 映像コンテンツ「能楽鑑賞入門」

(c) 文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数：400,000 件

ウ 収集した資料等を別表 8 のとおり展示公開する。実施に当たっては、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。

- ① 海外戯曲の翻訳に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会やリーディング公演を実施する。
- ② 主催公演の実施に当たり、上演内容の理解促進のため、民間出版社と連携して新訳戯曲を刊行する。
- ③ 海外の主要劇場等の情報を引き続き収集して、公演の充実等に活用するとともに、情報センターにおいて一般に向けて公開する。
また、各国主要劇場の概要を公演プログラムに記載するとともに、ホームページで公開する。
- ④ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、引き続き、整理・保存を行う。

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、インターネットでの検索を可能とする。また、図書、資料等の他の劇場施設等への貸与を行う。

- ① 情報センターについて、開架図書を充実させるとともに、資料等のインターネット検索機能の充実及び利用環境の向上に努める。
- ② 図書資料管理システムについて、引き続き図書等の情報のデータベース化を行う。
- ③ 所蔵品管理システムについて、引き続き過去の寄贈資料の情報のデータベース化を行う。

ウ 収集した資料等を、別表 8 のとおり展示公開する。実施に当たっては、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する。

イ 公演記録映像については、鑑賞会等を開催するとともに、講座・レクチャー等で活用する。また、必要な著作権処理を行った上で、外部制作会社等と連携して、DVD を作成する等の有効活用を図る。

ウ 公開講座等、普及活動の実施

- ① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開講座等を別表9のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、参加者に適宜アンケート調査を実施し、回答者の80%以上から有意義であったと回答されるよう内容等の充実に努める。
- ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。
- ③ 教職員の伝統芸能への理解を深め、教育を受ける児童・生徒に対して伝統芸能の普及促進を図る観点から、教員免許更新制における免許状更新講習を、文部科学大臣の認定を受けて実施する。
- ④ 組踊への理解を促進し、より一層の普及を図るため、組踊解説DVD及び組踊紹介展示パネル等の貸出しを行う。
- ⑤ オンラインコンテンツ「現代舞台芸術入門オンラインツアー」を、引き続き新国立劇場ホームページで公開し、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信する。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。

(1) 効率化に関する取組

ア 情報システムの活用

- ① 文書管理システム、人事・給与システム及び会計システム等、業務システムの安定稼働を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う。
- ② チケット販売関係システムの最適化を図るため、総合チケットシステムの開発を引き続き実施する。
- ③ システムの脆弱性への対応を着実に進めるとともに、不正アクセスへの監視及び対応を行い情報セキュリティの強化を図る。
- ④ 情報システムの効率的・安定的な稼働、セキュリティの強化のため、老朽化した情報通信基盤構成機器の整備に着手する。
- ⑤ 増加するデータ情報を適正に管理・運用していくためにファイルサーバーの整理・活用方法を検討する。

イ 事務手続きの簡素化

館内LANの活用、各種マニュアルの整備等により事務手続きの効率化を図るとともに、内部統制の強化を図りつつ決裁事務の簡素化を進める。

ウ 契約の適正化

- ① 引き続き「随意契約等見直し計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする。また、その取組状況をホームページで公表する。
- ② 契約監視委員会を引き続き設置して、定期的に契約の点検・見直しを行い、その結果を踏まえた契約方式を実施する。
- ③ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で導入する。

エ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策中長期計画書等を作成し二酸化炭素(CO₂)の削減を推進する。
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る。
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底する。

- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める。
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進する。
- (2) 給与水準の適正化
役職員の給与について、国家公務員の給与見直しの動向を見つつ、必要な措置を講ずる。給与水準については、適正化に関する検証結果や取組状況について公表する。
- (3) 組織機構の在り方の検討
業務運営の効率化等の進捗状況を踏まえ、人員配置など組織機構の在り方について検討し、必要な措置を講ずる。
- (4) 保有資産の有効利用
施設の有効利用のため、引き続き適切な管理・運用に努めるとともに、各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加に努める。
また、金融資産については、経済状況を踏まえつつ、適切な管理・運用に努める。
- (5) 内部統制の充実・強化
 - ア 平成 24 年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を行う。
 - イ 上記の自己点検評価をもとに、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を行う。評価結果については、公表するとともに、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映させる。
 - ウ 理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備するとともに、監事監査及び内部監査を実施して内部統制の充実・強化を図る。
 - エ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底する。
また、保有する情報については、法令等に基づき適切に情報の開示を行うとともに、情報セキュリティ対策についての意識の向上を図るため、各職員の自己点検の実施に加え、専門家による情報セキュリティ研修を実施する。

Ⅲ 予算

- 1 予算 別紙 1 のとおり
- 2 収支計画 別紙 2 のとおり
- 3 資金計画 別紙 3 のとおり

Ⅳ 短期借入金の限度額

運営費交付金の受入の遅延が生じた場合、短期借入金の限度額（10 億円）の範囲内で借入れを行う。

Ⅴ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

- (1) 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。

- (2) 事務能率の維持、増進を図るため、各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施する。

ア 接遇研修、国語研修等の内部研修を実施する。

イ 会計・人事・国際関係業務等の外部研修を活用する。

ウ 職員の心身の健康の保持増進を図る。

2 施設・設備に関する計画

- (1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

また、国立劇場本館が開場以来46年以上経過していることに鑑み、国立劇場本館長期整備方針検討委員会における議論を踏まえ、長期的な視野に立った改修工事計画の検討に着手する。

- (2) 国立劇場の観劇環境の整備のため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、振興会に設置する環境整備委員会等において施設・設備の充実、セキュリティの向上等の検討を行い、可能なものは速やかに実施する。

3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う。

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う。

なお、委託に当たっては、自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る。

[別表 1] 伝統芸能の公開に関する計画

1 歌舞伎（目標入場者数：223,290人）／24年度計画目標 243,300人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
10月歌舞伎公演	本館大劇場	10月3日～27日	25回	25日	20,000人
11月歌舞伎公演	〃	11月3日～26日	24回	24日	21,330人
12月歌舞伎公演	〃	12月3日～26日	24回	24日	22,730人
1月歌舞伎公演	〃	1月3日～27日	25回	25日	28,760人
3月歌舞伎公演	〃	3月3日～27日	25回	25日	19,670人
本公演（5公演）小計			123回	123日	112,490人
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「新歌舞伎十八番の内 紅葉狩」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	49,820人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「未定」	〃	7月3日～24日	44回	22日	60,980人
鑑賞教室（2公演）小計			90回	45日	110,800人
歌舞伎（7公演）合計			213回	168日	223,290人

2 文楽（目標入場者数：169,850人）／24年度計画目標 170,710人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
5月文楽公演「一谷嫩軍記」、「曾根崎心中」／「寿式 三番叟」、「心中天網島」	本館小劇場	5月11日～27日	34回	17日	15,810人
9月文楽公演	〃	9月7日～23日	34回	17日	17,320人
12月文楽公演	〃	12月4日～16日	13回	13日	6,760人
2月文楽公演	〃	2月8日～24日	51回	17日	23,090人
12月文楽鑑賞教室	〃	12月4日～16日	24回	13日	12,870人
本館（5公演）小計			156回	77日	75,850人
4月文楽公演「伽羅先代萩」、「新版歌祭文」、「釣女」 ／「心中天網島」	文楽劇場	4月6日～29日	46回	23日	17,500人
夏休み文楽特別公演	〃	7月20日～8月5日	51回	17日	20,000人
11月文楽公演	〃	11月2日～24日	44回	22日	17,500人
初春文楽公演	〃	1月3日～26日	46回	23日	20,000人
6月文楽鑑賞教室「日高川入相花王」、解説「文楽へ ようこそ」、「絵本太功記」	〃	6月7日～20日	28回	14日	19,000人
文楽劇場（5公演）小計			215回	99日	94,000人
文楽（10公演）合計			371回	176日	169,850人

3 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等（目標入場者数：18,500人）／24年度計画目標 20,940人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
5月舞踊公演「踊り、旅は道づれ・・・」	本館大劇場	5月25日	1回	1日	1,010人
8月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館小劇場	8月10日	2回	1日	740人
11月舞踊公演「舞の会ー京阪の座敷舞ー」	〃	11月23日	2回	1日	1,020人

3月舞踊公演「素踊りの会」	〃	3月21日～22日	2回	2日	900人
7月邦楽公演「邦楽へのいざない 親子で楽しむ日本の音 名曲で知る邦楽の世界」	〃	7月20日	2回	1日	950人
10月邦楽公演「邦楽鑑賞会 ー常磐津・清元の会ー ー新内の会ー」	〃	10月12日～13日	2回	2日	820人
10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	10月26日	1回	1日	580人
12月邦楽公演「稀曲の会ー隠れた名曲の魅力ー」	〃	12月21日	1回	1日	510人
1月邦楽公演「邦楽鑑賞会 ー長唄の会ー ー三曲の会ー」	〃	1月18日～19日	2回	2日	1,020人
6月雅楽公演「雅楽を楽しむ」「管絃」	〃	6月29日	2回	1日	1,000人
2月雅楽公演「舞楽」	本館大劇場	2月22日	1回	1日	1,550人
9月声明公演「天野社の舞楽曼茶羅供」	〃	9月14日	1回	1日	1,450人
11月声明公演「天台声明 慈覚大師御影供」	本館小劇場	11月9日	2回	1日	1,000人
6月民俗芸能公演「東日本大震災復興支援 東北の 芸能Ⅲ 福島」	〃	6月8日	2回	1日	1,060人
1月民俗芸能公演「東日本大震災復興支援（内容未 定）」	〃	1月25日	2回	1日	900人
4月舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦 楽鑑賞会」	〃	4月20日	1回	1日	420人
9月特別企画公演「日本の太鼓」	本館大劇場	9月28日	1回	1日	1,050人
本館（17公演）小計			27回	20日	15,980人
10月舞踊公演	文楽劇場	10月12日	2回	1日	790人
7月邦楽公演	〃	7月6日	1回	1日	680人
5月舞踊・邦楽公演「新進と花形による舞踊・邦楽 鑑賞会」	〃	5月11日	1回	1日	400人
9月特別企画公演	〃	9月23日	1回	1日	650人
文楽劇場（4公演）小計			5回	4日	2,520人
舞踊・邦楽等（21公演）合計			32回	24日	18,500人

4 大衆芸能（目標入場者数：52,370人）／24年度計画目標49,520人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定席公演（上席・中席）（22公演）	演芸場	毎月実施 （5月・1月は中席のみ）	241回	219日	36,000人
若手新人公演（花形演芸会）（12公演）	〃	毎月実施	12回	12日	3,300人
新春名人会	〃	1月2日～7日	8回	6日	2,300人
国立名人会（11公演）	〃	毎月実施 （1月を除く）	11回	11日	3,080人
特別企画公演（10公演）	〃	毎月実施 （5月・1月を除く）	14回	14日	3,850人
演芸場（56公演）小計			286回	262日	48,530人

師走浪曲名人会	文楽劇場	12月1日	1回	1日	700人
浪曲録声会	文楽劇場小ホール	5月18日	2回	1日	260人
上方演芸特選会（6公演）	〃	奇数月を実施	24回	24回	2,880人
文楽劇場（8公演）小計			27回	26日	3,840人
大衆芸能（64公演）合計			313回	288日	52,370人

5 能楽（目標入場者数：36,143人）／24年度計画目標 36,143人

区分	公演名	期間	回数	日数	目標 入場者数
定例 公演	狂言「富士松」、能「高野物狂」	4月6日	1回	1日	593人
	狂言「花争」、能「隅田川」	4月24日	1回	1日	593人
	狂言「宗八」、能「杜若」	5月17日	1回	1日	593人
	狂言「素袍落」、能「項羽」	5月22日	1回	1日	593人
	狂言「文荷」、能「藤」	6月5日	1回	1日	593人
	狂言「千鳥」、能「鉄輪」	6月21日	1回	1日	593人
	狂言「胸突」、能「加茂」	7月3日	1回	1日	593人
	狂言「呂蓮」、能「通小町」	7月17日	1回	1日	593人
	狂言「茫々頭」、能「白楽天長序之伝」	10月2日	1回	1日	593人
	狂言「樋の酒」、能「右近」	10月18日	1回	1日	593人
	狂言「箕被」、能「通盛」	11月15日	1回	1日	593人
	狂言「仏師」、能「盛久」	11月20日	1回	1日	593人
	狂言「地藏舞」、能「梅枝」	12月4日	1回	1日	593人
	狂言「石神」、能「春日龍神龍女之舞」	12月18日	1回	1日	593人
	素謡「翁」、狂言「寝音曲」、能「当麻」	1月7日	1回	1日	593人
	狂言「鴈礫」、能「井筒」	1月17日	1回	1日	593人
	狂言「法師ヶ母」、狂言「船橋」	3月5日	1回	1日	593人
	狂言「鈍太郎」、能「昭君」	3月19日	1回	1日	593人
普及 公演	解説、狂言「人を馬」、能「自然居士」	4月13日	1回	1日	593人
	解説、狂言「左近三郎」、能「田村替装束 長胡床」	5月11日	1回	1日	593人
	解説、狂言「昆布売」、能「天鼓」	6月8日	1回	1日	593人
	解説、狂言「子盗人」、能「半蔀」	7月13日	1回	1日	593人
	解説、狂言「鬼瓦」、能「実盛」	10月12日	1回	1日	593人
	解説、狂言「太刀奪」、能「国栖」	11月9日	1回	1日	593人
	解説、狂言「瘦松」、能「夜討曾我大藤内」	12月14日	1回	1日	593人
	解説、狂言「鬼の継子」、能「野守留之伝」	1月11日	1回	1日	593人
	解説、狂言「鎌腹」、能「葛城」	3月8日	1回	1日	593人
企画 公演	【国立能楽堂開場 30 周年記念特別企画公演】 スーパー能「世阿弥」	4月19日・20日	2回	2日	1,186人
	【国立能楽堂開場 30 周年記念特別企画公演】 能「関寺小町」	5月29日	1回	1日	593人
	【企画公演】能を再発見するⅢ 対談、能「雲林院」	6月13日	1回	1日	593人
	【企画公演】蠟燭の灯りによる	7月25日	1回	1日	593人

	狂言「瓜盗人」、能「熊坂」				
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「舍利」	8月10日	1回	1日	593人
	【企画公演】働く貴方に贈る 対談、能「邯鄲盤渉」	8月22日	1回	1日	593人
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「棒縛」、狂言「釣針」	8月24日	1回	1日	593人
	【企画公演】狂言と落語・講談 講談「鉢木」、落語「(未定)」、狂言「花折」	8月29日	1回	1日	593人
	【国立能楽堂開場30周年記念公演】 「翁」、能「楊貴妃干之掛 臺留」、狂言「萩大名」、 能「土蜘蛛千筋之伝 ささがに」	9月15日	1回	1日	593人
	【国立能楽堂開場30周年記念公演】 能「住吉詣悦之舞」、狂言「鶏賀」、能「正尊起請文」	9月16日	1回	1日	593人
	【国立能楽堂開場30周年記念公演】 能「鶴亀曲入」、能「羽衣舞込」、狂言「庵の梅」、 半能「石橋大獅子」	9月17日	1回	1日	593人
	【国立能楽堂開場30周年記念公演】 狂言「夷大黒」、狂言「通門」、狂言「八尾」、狂言「祐善古式」、 狂言「老武者」	9月20日	1回	1日	593人
	【企画公演】 講演（予定）、復曲能「鶴羽」	10月9日	1回	1日	593人
	【企画公演】 講演（予定）、能「融十三段之舞」	10月24日	1回	1日	593人
	【国立能楽堂開場30周年記念特別企画公演】古典の日記念 仕舞「海人」、能「道成寺古式」	11月1日	1回	1日	593人
	【国立能楽堂開場30周年記念特別企画公演】 狂言「釣狐」、狂言「太鼓負」	12月7日	1回	1日	593人
	【企画公演】 講演（予定）、能「呉服」	1月23日	1回	1日	593人
	【企画公演】 講演（予定）、能「西行桜」	1月30日	1回	1日	593人
	【企画公演】能を再発見するⅣ 対談、能「藤戸」	2月6日	1回	1日	593人
	【企画公演】女性能楽師による 仕舞、能「巻絹」	2月8日	1回	1日	593人
	【企画公演】蠟燭の灯りによる 謡講、能「二人静」	2月13日	1回	1日	593人
	【企画公演】働く貴方に贈る 実演、能「葵上」	2月28日	1回	1日	593人
	【企画公演】復興と文化 講演、狂言「福部の神勤入」、能「花月」	3月13日	1回	1日	593人
鑑賞 教室	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「清水」、能「黒塚」	6月24日～28日	10回	5日	5,900人
能楽（計51公演）合計：定例公演18、普及公演9、企画公演23、鑑賞教室1			61回	56日	36,143人

6 組踊等沖縄伝統芸能（目標入場者数：15,745人）／24年度計画目標 15,854人

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定期 公演	琉球舞踊「八重山舞踊」	大劇場	4月13日	1回	1日	316人
	組踊「手水之縁」	〃	4月28日	1回	1日	318人
	琉球舞踊「琉舞鑑賞会（うりずんの舞）」	小劇場	5月11日	1回	1日	153人
	三線音楽「琉球弧の島唄」	小劇場	5月18日	1回	1日	128人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	大劇場	6月8日～9日	2回	2日	696人
	沖縄芝居 歌劇「泊阿嘉」	〃	6月29日～30日	2回	2日	694人
	組踊「貞考婦人」	〃	7月13日	1回	1日	318人
	組踊「糸納敵討」	〃	8月25日	1回	1日	318人
	琉球舞踊「琉舞鑑賞会（豊穰の舞）」	小劇場	9月7日	1回	1日	153人
	組踊「花売之縁」	大劇場	9月15日	1回	1日	318人
	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	9月21日	1回	1日	411人
	民俗芸能 道の島々から（与論の十五夜踊り）	〃	10月13日	1回	1日	474人
	組踊「西南敵討」	〃	10月19日	1回	1日	318人
	沖縄芝居 史劇「謝名原の乱」	〃	12月21日～22日	2回	2日	694人
	琉球舞踊「新春琉舞名人選」	〃	1月11日～12日	2回	2日	822人
	組踊「大川敵討」（10周年記念特別公演）	〃	2月8日	1回	1日	462人
	琉球舞踊「琉舞鑑賞会（初春の舞）」	小劇場	2月15日	1回	1日	153人
	民俗芸能「沖縄の民俗芸能（泡瀬の京太郎等）」	大劇場	2月23日	1回	1日	474人
	組踊「護佐丸敵討」・「女物狂」	〃	3月22日	1回	1日	318人
企画 公演	新作組踊「伊野波節異聞」・「平敷屋朝敏」	〃	7月28日	1回	1日	316人
	沖縄芝居 「守銭奴」	〃	8月17日～18日	2回	2日	580人
	「国立劇場寄席」	〃	11月9日	1回	1日	506人
	「アジア・太平洋地域の芸能」	〃	11月24日	1回	1日	316人
	「創作舞踊」	〃	12月7日	1回	1日	316人
	歌舞劇「今日ぬ誇らしゃや」（10周年記念特別公演）	〃	1月25日～26日	2回	2日	926人
	能（10周年記念特別公演）	〃	3月9日	1回	1日	506人
研究 公演	村々に伝わる「組踊」	〃	5月26日	1回	1日	405人
普及 公演	社会人のための組踊鑑賞教室	〃	6月16日	1回	1日	434人
	親子のための組踊鑑賞教室	〃	8月10日	1回	1日	434人
	生徒のための組踊鑑賞教室	〃	10月24日～25日 11月14日～15日	8回	4日	3,468人
組踊等沖縄伝統芸能（30公演）合計：定期公演19、企画公演7、研究公演1、普及公演3				43回	39日	15,745人

[別表2] 現代舞台芸術の公演に関する計画

1 オペラ（目標入場者数：74,900人）／24年度計画目標74,260人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
「魔笛」	オペラ劇場	4月14日～21日	4回	4日	5,600人
「ナブッコ」（新制作）	〃	5月19日～6月4日	6回	6日	8,500人
「コジ・ファン・トゥッテ」	〃	6月3日～15日	5回	5日	6,300人
「夜叉ヶ池」（新制作・世界初演）	中劇場	6月25日～30日	5回	5日	3,200人
「リゴレット」（新制作）	オペラ劇場	10月3日～22日	7回	7日	10,700人
「フィガロの結婚」	〃	10月20日～29日	4回	4日	5,800人
「ホフマン物語」	〃	11月28日～12月10日	5回	5日	6,600人
「カルメン」	〃	1月19日～2月1日	5回	5日	7,300人
「蝶々夫人」	〃	1月30日～2月8日	4回	4日	5,100人
「死の都」（新制作）	〃	3月12日～24日	5回	5日	6,800人
高校生のためのオペラ鑑賞教室「愛の妙薬」	オペラ劇場	7月10日～17日	6回	6日	9,000人
オペラ（11公演）合計			56回	56日	74,900人

2 バレエ（目標入場者数：35,800人）／24年度計画目標44,900人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
「ペンギン・カフェ2013」 シンフォニー・イン・C/E=mc ² （日本初演）/ペンギン・ カフェ	オペラ劇場	4月28日～5月4日	5回	5日	6,300人
「ドン・キホーテ」	〃	6月22日～30日	4回	4日	5,000人
「バレエ・リュス ストラヴィンスキー・イブニング」 火の鳥／アポロ（新制作）／結婚（新制作）	〃	11月13日～17日	4回	4日	5,000人
「くるみ割り人形」	〃	12月17日～23日	7回	6日	10,000人
「白鳥の湖」	〃	2月15日～23日	5回	5日	6,300人
シンフォニー・イン・3ムーヴメント（新制作） ／大フーガ（新制作）／Jessica Lang 新作（世界初演）	中劇場	3月18日～23日	5回	5日	3,200人
バレエ（6公演）合計			30回	29日	35,800人

3 現代舞踊（目標入場者数：5,550人）／24年度計画目標5,310人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
平山素子～フランス印象派ダンス～Trip Triptych	中劇場	6月7日～9日	3回	3日	1,400人
中村恩恵×首藤康之 Aプログラム「新作」/Bプログラム「Shakespeare THE SONNETS」	〃	10月4日～10日	4回	4日	1,800人
DANCE to the Future ～Second Steps～	小劇場	12月7日～8日	2回	2日	550人
小野寺修二 カンパニーデラシネラ「ある女の家」	中劇場	1月23日～26日	4回	4日	1,800人
現代舞踊（4公演）合計			13回	13日	5,550人

4 演劇（目標入場者数：52,800人）／24年度計画目標 51,400人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
With-つながる演劇・ウェールズ編- 『『効率学のススメ』』（新作）	小劇場	4月9日～28日	18回	18日	4,200人
With-つながる演劇・韓国編- 「アジア温泉」（新作）	中劇場	5月10日～26日	18回	15日	10,400人
With-つながる演劇・ドイツ編- 「つく、きえる」（新作）	小劇場	6月4日～23日	20回	18日	4,800人
「象」（再演）	〃	7月2日～21日	18回	18日	4,200人
Try・Angle-三人の演出家の視点-Vol.1 「OPUS／作品」（日本初演）	〃	9月	20回	未定	4,800人
Try・Angle-三人の演出家の視点-Vol.2 「エドワード二世」（新訳上演）	〃	10月	20回	未定	4,800人
[JAPAN MEETS・・・現代劇の系譜をひもとく-VIII 「ピグマリオン」（新訳上演）	中劇場	11月～12月	22回	未定	14,800人
Try・Angle-三人の演出家の視点-Vol.3 「アルトナの幽閉者」（新訳上演）	小劇場	2月～3月	20回	未定	4,800人
演劇（8公演）合計			156回	未定	52,800人

〔別表 3〕 主に青少年を対象とした公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	入場者数
歌舞伎	6 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「新歌舞伎十八番の内 紅葉狩」	本館大劇場	6 月 2 日～24 日	46 回	23 日	49,820 人
〃	7 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「未定」	〃	7 月 3 日～24 日	44 回	22 日	60,980 人
文楽	12 月文楽鑑賞教室	本館小劇場	12 月 4 日～16 日	24 回	13 日	12,870 人
〃	6 月文楽鑑賞教室「日高川入相花王」、解説「文楽へようこそ」、「絵本太功記」	文楽劇場	6 月 7 日～20 日	28 回	14 日	18,000 人
能楽	6 月能楽鑑賞教室 解説、狂言「清水」、能「黒塚」	能楽堂	6 月 24 日～28 日	10 回	5 日	5,900 人
組踊等	生徒のための組踊鑑賞教室	国立劇場 おきなわ大劇場	10 月 24 日～25 日 11 月 14 日～15 日	8 回	4 日	3,468 人
伝統芸能（6 公演）合計				160 回	81 日	151,038 人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室「愛の妙薬」	オペラ劇場	7 月 10 日～17 日	6 回	6 日	9,000 人
現代舞台芸術（1 公演）合計				166 回	87 日	160,038 人

※ すべて別表 1 及び別表 2 の公演の中で実施するものである。

〔別表 4〕 社会人や親子を対象とした入門企画・公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6 月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6 月 14 日・21 日	2 回	2 日
〃	7 月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	〃	7 月 12 日・19 日	2 回	2 日
〃	7 月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	〃	7 月 15 日、19 日～24 日	13 回	7 日
文楽	12 月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	12 月 6 日・13 日	2 回	2 日
〃	6 月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6 月 10 日・19 日	2 回	2 日
〃	夏休み文楽特別公演（第一部 親子劇場）	文楽劇場	7 月 20 日～8 月 5 日	17 回	17 日
舞踊・邦楽等	7 月邦楽公演「邦楽へのいざない 親子で楽しむ日本の音」	本館小劇場	7 月 20 日（11 時の部）	1 回	1 日
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7 月 27 日	1 回	1 日
能楽	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	能楽堂	8 月 10 日	1 回	1 日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	能楽堂	8 月 24 日	1 回	1 日
〃	【企画公演】働く貴方に贈る	能楽堂	8 月 22 日	1 回	1 日
組踊等	社会人のための組踊鑑賞教室	国立劇場 おきなわ大劇場	6 月 16 日	1 回	1 日
〃	親子のための組踊鑑賞教室	国立劇場 おきなわ大劇場	8 月 10 日	1 回	1 日

※ すべて別表 1 及び別表 2 の公演の中で実施するものである。

[別表 5] 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
共催	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ 小劇場	8月～3月(15回)	沖縄県伝統芸能公演実行委員会(沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課)
受託	文化庁芸術祭祝典	新国立劇場 オペラ劇場	10月1日 (1回)	文化庁芸術祭執行委員会
共催	地域招聘公演 びわ湖ホール「三文オペラ」	新国立劇場 中劇場	7月12日～14日 (2回)	公益財団法人 びわ湖ホール

[別表 6] 全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	実施場所	期間(回数)	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	6月26日 (2回)	財団法人静岡県文化財団・静岡県
〃	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	7月26日～27日 (4回)	かながわ伝統芸能祭実行委員会
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演)「夕鶴」	尼崎市総合文化センター あましん アルカイックホール	10月30～31日 (2回)	公益財団法人尼崎市総合文化センター
〃	北の大地にひびく合唱の饗宴(仮題)	北海道教育大学 岩見沢校舎 i-Hall	8月3日 (1回)	北海道教育大学
受託	バレエ「ペンギン・カフェ」ほか	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	5月8日 (1回)	財団法人静岡県文化財団／静岡県
〃	〃	御殿場市民会館	5月11日 (1回)	御殿場市／静岡県
〃	現代舞踊「〜フランス印象派ダンス〜Trip Triptych」	穂の国とよはし芸術劇場	6月15日 (1回)	公益財団法人 豊橋文化振興財団
〃	演劇「象」	山形シベールアリーナ	7月30日 (1回)	公益財団法人弦地域文化支援財団
〃	〃	兵庫県立芸術文化センター	8月3日 (1回)	兵庫県／兵庫県立芸術文化センター
〃	演劇「OPUS／作品」	水戸芸術館	10月上旬 (2回予定)	公益財団法人水戸市芸術振興財団
〃	現代舞踊「Shakespeare THE SONNETS」	北九州芸術劇場	10月20日 (1回)	財団法人北九州市芸術文化振興財団
〃	〃	大分いいちこホール	10月23日 (1回)	財団法人大分県文化スポーツ振興財団
〃	バレエ「白鳥の湖」	柏崎市文化会館アルフォーレ	3月2日 (1回)	新潟県／ 新潟県舞踊芸術普及育成事業実行委員会／ 柏崎市文化会館 アルフォーレ

[別表 7] 国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間(回数)
アジア・太平洋地域の芸能	国立劇場おきなわ大劇場	11月24日(1回)
演劇「アジア温泉」	大韓民国 ソウル 芸術の殿堂(ソウル・アーツ・センター)	6月11日～16日 (7回予定)

[別表 8] 展示に関する計画

(目標来場者数：179,150 人) / 24 年度計画目標 175,170 人

展示名称	会場	期間	日数	目標 来場者数
企画展示「長谷川昇「歌舞伎絵・文楽人形絵」 ・「黙阿弥の仕事」	伝統芸能情報館 資料展示室	4/1～5/26	56 日	4,500 人
企画展示「歌舞伎入門」		6/2～9/23	113 日	17,800 人
企画展示「歌舞伎の世界」		10/3～1/27	112 日	13,500 人
企画展示「未定」		2/8～3/31	52 日	7,500 人
演芸資料展「演芸の楽しみ」	演芸場 資料展示室	4/1～7/21	93 日	10,800 人
演芸資料展「未定」		8/1～11/24	94 日	12,200 人
演芸資料展「未定」		12/1～3/22	84 日	10,100 人
企画展	能楽堂 資料展示室	4/19～6/13	48 日	6,240 人
能楽入門展		6/21～8/24	45 日	4,950 人
特別展（開場 30 周年記念）		9/15～11/20	58 日	8,700 人
収蔵資料展		1/7～3/13	57 日	6,270 人
企画展示（竹本義太夫と近松門左衛門）、同時開催一文楽入門—	文楽劇場 資料展示室	4/6～5/19	44 日	11,720 人
常設展示「文楽入門」、企画コーナー		6/7～8/25	79 日	18,070 人
企画展示（内容未定）、同時開催一文楽入門—		9/20～12/1	73 日	15,500 人
常設展示「文楽入門」、企画コーナー		1/3～2/23	52 日	17,900 人
特別展示（開場 30 周年記念）		3/27～3/30	4 日	500 人
企画展「琉球舞踊」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/13～6/23	72 日	3,096 人
企画展「組踊」		7/13～9/22	72 日	3,096 人
企画展「琉球と奄美の芸能」		10/5～12/15	72 日	3,096 人
企画展「能と組踊」		1/11～3/16	65 日	2,712 人
常設展「オペラハウスの感動」	舞台美術センター資料館	通年	272 日	900 人
現代演劇ポスター展		通年		
企画展「ベンジャミン・ブリテンの世界」		4 月～2 月		
企画展（内容未定）		2 月～3 月		
舞台衣装展示	新国立劇場内	通年		—
公演記録写真展示		通年		—

※ 伝統芸能情報館資料展示室「長谷川昇「歌舞伎絵・文楽人形絵」・「黙阿弥の仕事」は、24 年度から継続して開催。

※ 伝統芸能情報館資料展示室の、2/8 から開催する企画展示については、26 年度まで継続して開催する予定。

※ 文楽劇場資料展示室の、特別展示（開場 30 周年記念）については、26 年度まで継続して開催する予定。

[別表 9] 公開講座等に関する計画

(目標参加者数：7,656 人) / 24 年度計画目標 7,662 人

公開講座等名称	会場	実施時期	回数	目標 来場者数
伝統芸能サロン	伝統芸能情報館レクチャー室	隔月実施	6 回	540 人
公演記録鑑賞会（本館）	〃	毎月実施	12 回	1,080 人
能楽鑑賞講座	能楽堂大講義室	毎月実施	12 回	1,800 人
能楽特別講座	〃	未定	2 回	200 人
公演記録鑑賞会（文楽劇場）	文楽劇場小ホール	毎月実施	12 回	1,440 人
伝統芸能講座（文楽劇場）	文楽劇場小ホール	未定	1 回	50 人
公演記録鑑賞会（国立劇場おきなわ）	国立劇場おきなわ小劇場	四半期毎	4 回	600 人
沖縄伝統芸能公開講座（国立劇場おきなわ）	国立劇場おきなわ 会議室等	四半期毎	4 回	116 人
国立劇場おきなわ県外講演	名古屋市内（予定）	未定	1 回	130 人
現代舞台芸術入門講座	舞台美術センター資料館	未定	1 回	100 人
DVD 現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	12 回	180 人
マンスリー・プロジェクト （現代舞台芸術入門講座）	新国立劇場情報センター	毎月実施	17 回	1,240 人
DVD 現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	12 回	180 人

別紙1 予算（年度計画の予算）

平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	9,433
文化芸術振興費補助金	3,851
施設整備費補助金	222
助成事業収入	1,423
うち基金運用収入	1,398
うち寄附金収入	1
うちその他の収入	24
国立劇場事業収入	2,742
公演事業収入	2,698
うち公演事業収入	2,686
うち雑収入	12
研修事業収入	34
調査研究事業収入	10
国立劇場おきなわ事業収入	2
新国立劇場事業収入	257
受託事業収入	0
一般管理収入	25
計	17,955
支 出	
文化芸術振興費	3,851
施設整備費	222
助成事業費	1,464
うち人件費	140
うち物件費	1,324
国立劇場事業費	6,643
公演事業費	5,528
うち人件費	1,369
うち物件費	4,159
研修事業費	400
うち人件費	121
うち物件費	279
調査研究事業費	715
うち人件費	190
うち物件費	525

国立劇場おきなわ事業費	677
新国立劇場事業費	4,183
受託事業費	0
一般管理費	915
うち人件費	635
うち物件費	280
計	17,955

別紙2 収支計画

平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	金 額
費用の部	
基金助成事業費	5,315
うち人件費	140
うち物件費	5,175
うち文化芸術振興費	3,851
うち芸術文化振興基金助成費等	1,324
国立劇場公演等事業費	6,834
公演事業費	5,225
うち人件費	1,369
うち物件費	3,856
研修事業費	343
うち人件費	121
うち物件費	222
調査研究事業費	608
うち人件費	190
うち物件費	418
国立劇場おきなわ公演等事業費	658
受託事業費	0
新国立劇場公演等事業費	3,876
一般管理費	876
うち人件費	635
うち物件費	241
減価償却費	1,234
計	18,135
収益の部	
基金助成事業収入	5,314
うち運営費交付金収益	40
うち文化芸術振興費補助金収益	3,851
うち基金運用収入	1,398
うち寄附金収入	1
うちその他の収入	24
国立劇場公演等事業収入	6,835
公演事業収入	5,226
うち運営費交付金収益	2,528
うち雑収入	12

うち公演事業収入	2,686
研修事業収入	343
うち運営費交付金収益	309
うち雑収入	34
調査研究事業収入	608
うち運営費交付金収益	598
うち雑収入	10
国立劇場おきなわ公演等事業収入	658
うち運営費交付金収益	656
うち国立劇場おきなわ事業収入	2
受託事業収入	0
新国立劇場公演等事業収入	3,876
うち運営費交付金収益	3,619
うち新国立劇場事業収入	257
一般管理収入	876
うち運営費交付金収益	851
うち雑収入	25
資産見返運営費交付金戻入	1,234
計	18,135
純利益	0
積立金取崩額	0
総利益	0

別紙 3 資金計画

平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで）

（単位：百万円）

区 分	金 額
資金支出	23,110
業務活動による支出	16,901
投資活動による支出	1,054
翌年度への繰越金	5,155
資金収入	23,110
業務活動による収入	17,733
運営費交付金による収入	9,433
文化芸術振興費補助金による収入	3,851
公演事業による収入	2,945
公演受託事業による収入	0
基金運用による収入	1,398
その他の収入	106
投資活動による収入	222
施設整備費補助金による収入	222
その他の収入	0
前年度よりの繰越金	5,155

別紙 4 施設・設備に関する計画

平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで）

（単位：百万円）

区 分	予定額	財 源
新国立劇場中央監視設備等整備工事	78	施設整備費補助金
国立劇場おきなわ大劇場吊物機構インバータ電源更新工事	34	施設整備費補助金
新国立劇場便所改修工事	110	施設整備費補助金